



SQUADRA CORSE

2017年7月2日

FIA-F4 第7 & 8戦 (スポーツランド SUGO) レビュー
セーフティーカー出動多発！大波乱のサバイバルレース

■大会概要

開催地：宮城県・スポーツランド SUGO インターナショナル・レーシングコース（1周：3.704km）
開催日：2017年7月22日（土）～7月23日（日）

■大会結果

・19号車：アカシュ・ゴウダ

7月22日（天気：晴れ／路面：ドライ）	第1戦予選：20番グリッド
7月22日（天気：晴れ／路面：ドライ）	第2戦予選：20番グリッド
7月22日（天気：晴れ／路面：ドライ）	第1戦決勝：23位（最大30分間規定適用により14周）
7月23日（天気：雨／路面：ウェット）	第2戦決勝：13位（最大30分間規定適用により14周）

・63号車：金澤 力也

7月22日（天気：晴れ／路面：ドライ）	第1戦予選：21番グリッド
7月22日（天気：晴れ／路面：ドライ）	第2戦予選：21番グリッド
7月22日（天気：晴れ／路面：ドライ）	第1戦決勝：16位（最大30分間規定適用により14周）
7月23日（天気：雨／路面：ウェット）	第2戦決勝：12位（最大30分間規定適用により14周）

■大会レビュー

2017シーズンのFIA-F4シリーズ第7&8戦は7月22～23日、宮城県のスポーツランド SUGO インターナショナル・レーシングコースで31台の参加により開催され、VSR ランボルギーニ・スクアドラ・コルセ・フォーミュラ・ジュニア・チーム（VSR Lamborghini Squadra Corse Formula Junior Team）は、開幕からの2ラウンド同様、63号車金澤力也（かなざわ りきや／20歳）とインド人ドライバー、19号車 Akash Gowda（アカシュ ゴウダ／18歳）を起用する2台体制で挑みました。

7月20日（木）から始まった公式テストセッションでは、陽射しの強い真夏の暑さのもと始まりました。事前テスト走行を行なっている金澤はコンディション変化へのマッチングを確認。初走行のゴウダは水曜

日のコースウォークで確認したコースレイアウトを実際のドライビングで習得することに専念しました。

21日（金）は45分間のセッション2回において予選シミュレーションを行ないました。両ドライバーともにニュータイヤの感覚をしっかりと把握することはできましたが、タイム的には満足できるレベルには到達してなく、セッティングのみならず、ドライビング面もさらに調整して予選に備えました。

そして迎えた20日（土）の予選。金澤は序盤のアタックでフィーリングが良くなく、ピットインしてサスペンションを調整して再度アタックするも納得のいかない21番手（セカンドベストも21番手）どまり。ゴウダはアタック3ラップ目で自己ベストをマーク。ピットでタイヤの空気圧を調整してさらなるタイムアップに挑みましたが、20番手（セカンドベストも20番手）は変わりませんでした。

予選終了から4時間を過ぎ、気温と路面温度が上昇し、さらにSGTマシンの公式練習が行なわれたため、コースのラバーグリップが変化していることを考慮したセッティングを施し、15週の決勝第1レースに臨みました。両ドライバーともにスタートをうまく決めて1コーナーへ。第4コーナーの混戦でイン側に押しやられたゴウダはポジションダウン。この混乱をアウト側から切り抜けた金澤は18番手へポジションアップ。さらにゴウダは前方でコースアウトするマシンをコース外へと避けて23番手へとポジションダウン。波乱のオープニングラップを終えて戻ってきた時点でセーフティーカーが導入され、クラッシュ車両の撤去と負傷ドライバーの救出が行なわれ、再スタートが切られたのは11周目。金澤は16番手へ、ゴウダは20番手へとポジションアップ。ところが13周目終了時点でゴウダがピットイン。電気系統のトラブル発生でエンジンが吹けあがらなくなっていました。そしてこの13周を終了した時点で規定時間の30分を経過し、14周目にチェッカーフラッグが振り下ろされました。金澤は16位でフィニッシュ。ピットロードに留まっていたゴウダは23位完走扱いになりました。

21日（日）の決勝第2レースは早朝から降り始めていた雨が一旦は止んだものの、スタート1時間前にはコースを完全に濡らすほどの降雨となりました。今シーズンのレースでウェット状態だったのは、第1、2Rdの岡山戦のみ。セッティング面はこのレースウィークで煮詰めてきたドライ用をウェット仕様に変更することで対応。両ドライバーとも菅生のウェット走行は初めてのため、ドライビング面は岡山ラウンドでの各ドライバーの反省点を振り返り、コース面はチームからのコーチングで備えることにしました。

レースはSC先導によるSCスタートとなり、4周目にグリーンライト点灯にてバトル開始。金澤はシケインで前車のスピンを避けたゴウダを抜いて17番手へ、ゴウダは18番手で4周目をクリア。ところが、上位勢にクラッシュの混乱が発生し、再びセーフティーカーが導入されました。7周目終了までに前方での脱落車両により金澤は14番手へ、ゴウダも15番手へとポジションアップ。そして再びセーフティーカーが導入されました。10周終了時点で再スタートが切られ、雨が止んでコースコンディションが刻々と良くなる中でのポジションアップが期待されましたが、ゴウダはなかなかタイムが上がらず15位のままフィニッシュ。一方、金澤は13周目にワンポジションアップのオーバーテイクを見せ、さらに12番手への猛追を見せました。ところが、ここで第1レースと同様に30分間の規定時間がタイムアップし、規定よりも1周少ない14周目終了時点でチェッカーフラッグが振られました。あと一周あればという期待感を残しながら金澤は13位フィニッシュしました。

FIA-F4第9&10戦は8月5（土）～6日（日）に今シーズン2回目となる静岡県の富士スピードウェイにて開催されます。前回開催時のデータと、両ドライバーのスキルアップを生かしてのポイント獲得が期待されます。

■ ドライバーコメント

・19号車：アカシュ・ゴウダ

「SUGO は初めての走行でしたので、水曜日にコースウォークでじっくりとレイアウトを勉強しました。そのお陰もあって、そして自分のドライビングスタイルにマッチしたレイアウトとあって、順調にコースを習得できたと思います。第1レースではオープニングラップでの4コーナーとシケインでクラッシュを避けるためにコースを外れ、ポジションダウンしてしまいました。その後のラップタイムは決して悪くはなかっただけに残念です。最後は電気系トラブルでエンジンが吹け上がらなくなり、ピットに戻りました。チームスタッフによってトラブルの原因が判明しましたので、第2レースには気持ちを切り替えて挑むことにしました。その第2レースは岡山戦以来のウェットレースとなり、ほとんどSC走行となりましたが、いざ、レースが再開されると、思っていた以上にペースが上げられず、攻める走りが出来ませんでした。結果的にシーズンベスト順位ですが、自分のドライビング面で大いに反省しています。次戦の富士は2回目の開催ですので、前回のデータを生かして全力で挑みます」



© 2017 VSR Lamborghini Junior Team

・63号車：金澤 力也

「菅生へ向けて、事前テストも行ない、万全の状態の木曜日からのプラクティスに臨みました。木曜日のプラクティスでは、コンディションの変化もあって、なかなか思い通りのセッティングに煮詰められませんでした。その影響は予選まで続き、納得できないポジションに終わりました。ドライでの第1レースはやはり攻めきれない状態のままゴールになりました。しかしウェットでの第2レースでは終盤に前方マシンを追い立てることができ、自分でも納得の走りができました。もちろん条件はみんな一緒ですが、あと

1周あれば、もっと SC が短ければ、さらに上位にいけたと思います。この勢いを次戦の富士でもプラクティス初日から発揮して、しっかりとマシンのセットアップを決め、予選上位からのポイント獲得を目指します」



© 2017 VSR Lamborghini Junior Team

以上

この件に関するお問い合わせ : VSR Lamborghini Squadra Corse 事務局 machida.vsr@gmail.com